大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F126310107644	設置等組織名	情報学部(学科名称検討中)、デザイン学部建築学科
大学名	京都精華大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	京都	事業計画名	京都精華大学 情報学部（通信制）設置・建築学科収容定員増加計画

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和6年度	1-① 令和6年8月～教育課程の内容検討（情報学部、建築学科） 1-② 令和6年8月～カリキュラムアドバイザー、本学教員等で編成されるカリキュラム検討会議（以降定期開催、情報学部、建築学科） 1-③ 令和6年8月～施設・設備検討会議（以降定期開催、情報学部、建築学科） ~~1-④ 令和6年10月～受講者層となる人材をターゲットした企業や関係団体によるワークショップ（情報学部）~~（R8.4.9承認） 1-⑦ 令和6年10月～実務家教員調査スタート（建築学科） ~~1-⑧ 令和6年10月～自治体・企業への意見聴取スタート（建築学科）~~（R8.4.9承認） 2前-① 令和7年1月～新校舎基本設計	1-① 令和6年10月～教育課程の内容検討（情報学部、建築学科） 1-② 令和6年10月～カリキュラムアドバイザー、本学教員等で編成されるカリキュラム検討会議（以降定期開催、情報学部、建築学科） 1-③ 令和6年8月～施設・設備検討会議（以降定期開催、情報学部、建築学科） 1-⑦ 令和6年10月～実務家教員調査スタート（建築学科）	令和6年度自己評価 【３】計画を十分に実施している。 当初の予定より、工学系学部や通信制学部の開設に必要な条件の調査に時間を要したため、カリキュラム検討会議や教育課程の内容検討を開始する時期が遅れた。 また、新設予定の通信制情報学部は、既存の学部にはない新たな学位の分野（工学関係）であり、かつ、通信制であることから、当初の予定より、構想やカリキュラムの検討および教員候補者の選定に時間を要した。そこで、まずは、事業の核となる部分の検討に時間を割き、海外教育機関との会合、企業や関係団体によるワークショップおよび自治体・企業への意見聴取については、次年度に実施することとした。 一方で、デザイン学部建築学科については、おおよそ計画の通り進めることができたが、こちらも構想やカリキュラムの検討に重きを置いたため、ニーズ調査を次年度に実施するよう計画を変更した。 次年度は、構想やカリキュラムの検討および通信制の労務諸条件整備等を前期開に行ない、その他の取組へ繋げるため、検討体制を見直すとともに、計画変更を行ない、着実に計画を進めることができるよう務める。 新校舎の基本設計については、おおむね計画の通り進めている。ただし、施設設備整備費・建物取得費における令和6年度の「基本設計費」については、令和7年度に見送った。これによる学部開設への影響はない。
令和7年度	1-① 令和6年8月～教育課程の内容検討（情報学部、建築学科） 1-② 令和6年8月～カリキュラムアドバイザー、本学教員等で編成されるカリキュラム検討会議（以降定期開催、情報学部、建築学科） 1-③ 令和6年8月～施設・設備検討会議（以降定期開催、情報学部、建築学科） 1-⑦ 令和6年10月～実務家教員調査スタート（建築学科） ~~1-⑧ 令和7年4月～高大連携ワークショップ（建築学科）~~（R8.4.9承認） 1-⑨ 令和7年4月～ニーズ調査のための通信制高校、地元企業等への調査（情報学部、建築学科）（R8.4.9承認） 1-⑩ 令和~~6~~7年4月～ニーズ調査（情報学部、建築学科）（R7.3.18承認）（R8.4.9承認） 1-④ 令和~~6~~7年~~5~~6月～~~インド工科大学ムンバイ校、シリバラジ大学関係者とのカリキュラム検討のための現地会合~~ウズベキスタンJapan Digital Universityと提携相談（情報学部）（R8.4.9承認） 1-⑤ 令和8年~~5~~1月～教材準備（情報学部）（R8.4.9承認） 2前-① 令和7年1月～新校舎基本設計 2前-② 令和7年8月～実施設計	1-① 令和6年10月～教育課程の内容検討（情報学部、建築学科） 1-② 令和6年10月～カリキュラムアドバイザー、本学教員等で編成されるカリキュラム検討会議（以降定期開催、情報学部、建築学科） 1-③ 令和6年8月～施設・設備検討会議（以降定期開催、情報学部、建築学科） 1-⑦ 令和6年10月～実務家教員調査スタート（建築学科） 1-⑨ 令和7年4月～ニーズ調査のための通信制高校、地元企業等への調査（情報学部） 1-⑩ 令和7年4月～ニーズ調査（情報学部、建築学科） 1-④ 令和7年5月～ウズベキスタンJapan Digital Universityと提携相談（情報学部） 1-⑤ 令和8年1月～教材準備（情報学部） 2前-① 令和7年1月～新校舎基本設計 2前-② 令和7年8月～実施設計 [改組内容]令和8年5月29日現在未申請 （情報学部） 令和8年 新設する学部の名称を情報学部から創造情報学部に変更することを検討中。 令和8年 創造情報学部について、学位の分野を工学関係から工学関係、芸術関係に変更することを検討中。 令和8年 創造情報学部の定員を1年次入学定員を100名から150名に変更することを検討中。（編入学定員50名は変更なし） （建築学科） 令和8年 デザイン学部建築学科の定員増（20名）の中止を検討中。 令和8年 建築学科の定員増を中止とした場合、人文学部の収容定員減に係る届出の中止を検討中。	令和7年度自己評価 【３】計画を十分に実施している。 令和7年度は、2028年度（令和10年度）の開設および定員増に向け、両学部の開設準備を継続した。通信制となる情報学部については、計11回の検討会議を重ねて教育課程を構築した。また、各種ニーズ調査の結果を反映させたカリキュラム案の策定をおおむね完了させた。教材準備においては、オンライン教育に最適な指導方法の検討に時間を要したことにより、授業動画の制作が当初の想定より遅れているが、効率的に制作するための手法の確立により次年度以降の制作加速を図る。 通学制の建築学科については、計10回の委員会を開催し、収容定員20名増を見据えた新たなカリキュラム案を策定した。今後は、この計画を実効性をもって遂行できる教育体制の充実が最重要課題である。調査により鮮明になった、脱合大学の募集力を上回るための、本学ならではの教育展開およびその魅力の打ち出し方法についてさらに議論を深め、組織的な体制整備を検討する。 施設整備面では、新校舎建設に係る業者選定等に難航し、スケジュール調整に苦慮した。しかし、慎重な協議を経て基本設計の完了および実施設計の依頼を完了し、現時点では開学時期に影響を及ぼさないよう工程管理に注力している。今後は、策定した学部構想および設計案に基づき、施設環境の整備と教育内容の具体化を並行して進め、設置準備を継続する。
令和8年度	1-⑤ 令和8年~~9~~1月～教材準備（情報学部）（R8.4.9承認） 1-⑩ 令和~~8~~9年4月～学部開設に係る広報開始（構想中を付記）（R8.4.9承認） 1-⑪ 令和~~8~~9年4月～広報用パンフレット/ホームページ制作（情報学部）（R8.4.9承認） 1-⑬ 令和~~8~~9年4月～日本語学校への訪問活動（建築学科）（R8.4.9承認） 1-⑭ 令和~~8~~9年6月～プレスリリース、入試情報の公表（情報学部、建築学科）（R8.4.9承認） 1-⑯ 令和8年~~9~~10月～特設サイト/パンフレット制作（情報学部、建築学科）（R8.4.9承認） 1-⑰ 令和8年9月～動画制作（建築学科） 1-⑱ 令和8年9月～動画広告作成、配信（情報学部、建築学科） 2前-③ 令和8年7月～新築設計管理		令和8年度自己評価 リストから選択してください。
令和9年度	~~2-⑤ 令和9年 新校舎の施設設備整備（情報学部、建築学科）~~（R8.4.9承認） 1後-⑨ 令和9年4月～Web、新聞など各メディアでの広報展開（情報学部、建築学科） 1後-⑩ 令和9年7月～入学試験要項の公開（情報学部、建築学科） 1後-⑪ 令和9年9月～入学願書受付開始（情報学部） 1後-⑫ 令和9年9月～入学者選抜（他の通学課程入試と同タイミング、複数形式、複数回）（建築学科 1後-⑬ 令和10年3月～初年次入学者確定、入学前ガイダンス（情報学部、建築学科） 2-③ 令和8年7月～新築設計管理		令和9年度自己評価 リストから選択してください。
令和10年度	3-① 令和10年4月～ 情報学部開設、運営（以降継続）（情報学部） 3-② 令和10年4月～ 授業配信でのオリジナルLMSシステムの実用、並走して検証、改善（以降継続）（情報学部） 3-③ 令和10年4月～ 新入生アンケート（以降定期実施）（情報学部、建築学科） 3-④ 令和10年5月～ 学部、学科運営会議（以降定期開催）（情報学部、建築学科） 3-⑤ 令和10年5月～ 連携機関を含めた運営委員会（以降定期開催）（情報学部） 3-⑥ 令和10年8月～ 在学生アンケート（以降定期実施）（情報学部、建築学科） 3-⑧ 令和10年中～ パンフレット改訂、増刷（建築学科） 3-⑨ 令和10年～ 動画広告配信（以降複数回実施）（情報学部、建築学科）		令和10年度自己評価 リストから選択してください。
令和11年度	2-④ 令和11年4月～「新校舎」の改築（情報学部、建築学科）（R8.4.9承認）		令和11年度自己評価 リストから選択してください。
令和12年度	3-⑦ 令和~~10~~12年8月～ インド工科大学、シリ・パラジ大学等の夏期合同授業（以降定期実施）（情報学部）（R8.4.9承認）		令和12年度自己評価 リストから選択してください。
令和13年度	3-⑩ 令和14年3月 卒業生アンケート、進路調査（以降定期実施）（情報学部、建築学科）		令和13年度自己評価 リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価 リストから選択してください。
令和15年度			令和15年度自己評価 リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和9年3月 情報学部(学科名称検討中)設置認可申請予定 令和9年6月 デザイン学部建築学科収容定員に係る学則変更届出予定		
定員減又は 学部等の廃止	令和9年6月 人文学部（国際文化学部から名称変更を2024年度内に文部科学省へ事前相談予定）の収容定員減に係る届出予定		

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	京都精華大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右のOの項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右のOの項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通した教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
□ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
■ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報学部 a.ベースドラム社がDX推進人材を派遣している制作会社でのインターンシッププログラムを実施したり、共同プロジェクトを実施する計画である。他にも、株式会社ロフトワーク（社会問課題を創造性を持ったプロジェクトで解決。FabCafe Kyotoを運営）、株式会社博展（展示会等の企画を実施、体験価値の創造を通じて、企業・団体のコミュニケーションをデザイン）、株式会社たきコーポレーション（UI／UXに強い）等から実務者を講師として招く。フェーズ1でもワークショップを実施し、授業の編成に活かす予定である。 c.連携実績のあるインド工科大学ムンバイ校や、シリ・パラジ大学と連携し、同校の授業のカリキュラムへの導入、留学制度の開設、合同ワークショップなどを計画している。 建築学科 c.　既にアメリカのオーバーン大学とのワークショップ(ワークショップ後に転用・リサイクルできる素材、自然に還るサイクルの早い素材を使ってプリミティブな小屋を作る課題)や、ドイツのアンハルト大学とのワークショップ(建築資材の転用に着目し、街にサスティナブルな居場所をつくる課題)を実施している実績がある。今後も、海外の提携大学との合同ワークショップの取組を発展させていく計画である。	情報学部（学科名称検討中） a. 学部構想とカリキュラムの検討を優先。有識者との協議を通じてニーズを十分に把握し、ターゲットを特定できたため、初期のニーズ調査用ワークショップ等は実施せず、そこで得た知見を直接カリキュラムの充実へと反映させる形に進化させた。（R8.4.9承認） c. 教育内容の精査を先行。連携先はインドに加え、新たにウズベキスタンのJapan Digital Universityとの視察・協議を行うなど、本学の強みを活かした、より実効性の高いグローバル展開へと計画を広げた。（R8.4.9承認） 建築学科 c. 新カリキュラムの構想に比重を高くした。当初予定していた出張ワークショップ等は、教育の核となる部分を固めた上で、より質の高いプログラムとして再構築するために実施を見送った。（R8.4.9承認）	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

□ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
■ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報学部 c.地域の通信制高校拠点と連携したオンライン授業の実施。 d.授業および教材のオンデマンド配信によって、時間や空間の制約が無い柔軟な受講、繰り返し学習、隙間学習などを可能とし、リカレント・リスキリング受講層も広く受け入れる。 e.コンテンツの完全英語化、国外からの受講を促進するための、オンデマンド授業の充実、海外連携校等との関係強化 建築学科 b.女子高生に向けた建築分野のワークショップを積極的に行う計画である。 c.京都精華大学では、子ども木工工作工房の出張ワークショップを行ったり、近隣高校への高大連携を通した出張授業の実施を行っている。今後もこの取り組みを発展させるべく新たな出張ワークショップや高大連携授業先を開拓する計画である。 e.本学の入試制度では国内受験生だけではなく、外国人留学生への扉も広く開かれていることを外国人留学生を多く抱えている日本語学校等へ発信していく。また、大学では１年次からの英語を用いた授業の実施を行っており、外国人留学生の受け入れ体制としても整っていることをアピールしていく計画である。	情報学部（学科名称検討中） a. 学部構想とカリキュラムの検討を優先。有識者との協議を通じてニーズを十分に把握し、ターゲットを特定できたため、当初予定していた初期のニーズ調査用ワークショップ等は実施せず、そこで得た知見をカリキュラムの充実へと直接反映させた。（R8.4.9承認） c. e. 連携授業の前提となるカリキュラム構成の検討を優先。高校等との具体的な連携については、教育内容の精査に注力するため、基盤構築を優先した。（R8.4.9承認） d. e. 柔軟な受講環境とオンデマンド教育の実現に向け、システム構築を担う業者を確定。現在はカリキュラムの検討課程で得られた知見をシステム要件へ反映させるための詳細な設計・構成案の策定を進めている。 建築学科 b. c. e. 新カリキュラムの特色を活かしたプログラムとするため、構想の深化を優先した。当初予定していた女子中高生向けワークショップや高大連携、出張授業等は、実施に取りかかる前に、教育課程の検討を優先した。（R8.4.9承認）	

大学名	京都精華大学

１.本事業対象となる学部等の状況

<合計>

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人					176														
		編入学定員	人					50														
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	56	56	56																
		入学者数	人	41	43	46																
		女子学生数	人	15	16	19																
		社会人学生数	人	1	1	0																
		留学生数	人	14	20	19																
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	56	56	56																
		入学者数(B)	人	41	43	46																
		女子学生数	人	15	16	19																
		社会人学生数	人	1	1	0																
		留学生数	人	14	20	19																
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.73	0.77	0.82																
	収容定員等	収容定員(C)	人	224	224	224																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	179	169	171																
		編入学者数	人	1	0	0																
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.80	0.75	0.76																
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	44	33																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	38	43	48																
		授業科目の単位数	単位	832	679	679																

大学名	京都精華大学

本事業対象となる学部等の個数	2

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	情報学部(学科名称検討中)（工学関係）

大区分	小区分	項目	単位	年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
				改組状況	選定																		
事業計画に定める定員		入学定員	人						100														
		編入学定員	人						50														
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																		
		入学者数	人	-	-																		
		女子学生数	人	-	-																		
		社会人学生数	人	-	-																		
		留学生数	人	-	-																		
	その他の学期	入学定員	人	-	-																		
		入学者数	人	-	-																		
		女子学生数	人	-	-																		
		社会人学生数	人	-	-																		
		留学生数	人	-	-																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																		
		入学者数(B)	人	-	-																		
		女子学生数	人	-	-																		
		社会人学生数	人	-	-																		
		留学生数	人	-	-																		
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																		
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																		
		編入学定員	人	-	-																		
		在籍者数(D)	人	-	-																		
		編入学者数	人	-	-																		
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																		
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																		
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																		
		授業科目の単位数	単位	-	-																		

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

大学名	京都精華大学

(2)

改組内容	既存学科の収容定員の増加
学部学科名	デザイン学部建築学科（美術関係、工学関係）

大区分	小区分	項目	単位	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
改組状況				選定																		
事業計画に定める定員		入学定員	人					76														
		編入学定員	人																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	56	56	56																
		入学者数	人	41	43	46																
		女子学生数	人	15	16	19																
		社会人学生数	人	1	1	0																
		留学生数	人	14	20	19																
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	56	56	56																
		入学者数(B)	人	41	43	46																
		女子学生数	人	15	16	19																
		社会人学生数	人	1	1	0																
		留学生数	人	14	20	19																
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.73	0.77	0.82																
	収容定員等	収容定員(C)	人	224	224	224																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	179	169	171																
		編入学者数	人	1	0	0																
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.80	0.75	0.76																
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	44	33																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	38	43	48																
		授業科目の単位数	単位	832	679	679																

大学名	京都精華大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	56	56	56																
		入学者数	人	41	43	46																
		女子学生数	人	15	16	19																
		社会人学生数	人	1	1	0																
		留学生数	人	14	20	19																
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	56	56	56																
		入学者数(B)	人	41	43	46																
		女子学生数	人	15	16	19																
		社会人学生数	人	1	1	0																
		留学生数	人	14	20	19																
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.73	0.77	0.82																
	収容定員等	収容定員(C)	人	224	224	224																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	179	169	171																
		編入学者数	人	1	0	0																
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.80	0.75	0.76																
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	44	33																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	38	43	48																
		授業科目の単位数	単位	832	679	679																

大学名	京都精華大学

３.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	1098	1098	992																
		入学者数	人	984	953	1038																
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,098	1,098	992																
		入学者数(B)	人	984	953	1,038																
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.90	0.87	1.05																
	収容定員等	収容定員(C)	人	4392	4392	4286																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	4031	4008	4087																
		編入学者数	人	28	24	17																
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.92	0.91	0.95																

４.外部資金の状況（全学）

年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況	申請−5年	申請−4年	申請−3年	申請−2年	申請−1年	申請	選定												
項目 単位																			
外部資金獲得額 千円	106,203	96,476	107,759	121,287	71,366	89,672	91,346	91,110											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均（過去5年間における各年度の外部資金	千円	103,479
本事業による助成金の額(F)	千円	1,257,447
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	134,915

特記事項

・「１.本事業対象となる学部等の状況」デザイン学部建築学科の令和6年度および令和7年度の編入学定員0名とは、若干名を意味している。
・「２.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況」授業科目の単位数については、入学年度によってカリキュラムが異なるため、以下の通り算出した。
〈R6年度〉2017～2020年度入学生向けカリキュラムおよび2021～2024年度入学生向けカリキュラムにおける対象授業科目の単位数を合算。
〈R7年度〉2021～2024年度入学生向けカリキュラムおよび2025年度以降カリキュラムにおける対象授業科目の単位数を合算。
・「３.大学（学士課程）の状況」の令和6年度および令和7年度の「編入学定員」0名とは、若干名を意味している。